

# じょんのび通信



## ご挨拶

新潟県厚生連上越総合病院

いからし やすし  
事務長 五十嵐 泰史

今年4月、上越総合病院に事務長として赴任して参りました五十嵐と申します。よろしくお願ひ申し上げます。前任地は上越市のお隣、妙高市にあるけいなん総合病院でした。同じ圏域内での異動でしたので、大まかな地域の医療事情は理解していたつもりですが、やはりそれぞれの病院の役割が違う中で、地域の状況を考え、どのようにアプローチし、病院運営を進めていけば良いのか、日々考えを巡らせているところです。

さて、当院の最近の状況をお話ししますと、9月からの総合入院体制加算取得について届出を行いました。今般の取得については、厳しい実績要件をクリアできたことはもちろんですが、さいがた医療センターとの医療連携が大きく貢献していることをこの場を借りてご報告させていただきます。また、令和6年診療報酬改定で創設された地域包括医療病棟の施設基準取得への取り組みを進めておりますが、10月からの取得について概ね目途が立ったところであり、地域包括医療病棟とは、高齢者の救急搬送・入院の受け入れ先として創設されたものであり、当圏域でも増加の一途をたどる高齢者の救急搬送・入院にしっかりと対応するために決断いたしました。このように当院では、地域のニーズに合わせた病院機能の向上について鋭意取り組んでおります。

新聞報道等で新潟厚生連が厳しい状況にあるということについてお聞きになった方も多いと思います。数年間にわたるコロナ禍を乗り越えたところではありますが、病院経営を取り巻く環境は依然として厳しいままです。しかしながら、同じ圏域にある糸魚川総合病院・けいなん総合病院と手を携え、地域から信頼され、安心・安全の医療を提供する病院として、「人にやさしく、地域に開かれた病院を目指して」を実践していけるよう微力ながら力を尽くす所存ですので、今後の当院の取り組みについて温かい目で見守っていただけると幸甚に存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。





## ご挨拶

循環器内科 しょういん わたる 正印 航

私が当院へ赴任し、カテーテルアブレーション治療を始めてから約2年が経過いたしました。当院の近況と、近年の治療適応の変化についてご紹介します。

2022年5月に治療を開始してから、計137例(8月末時点)の治療を行ってきました。当院は通常2-3泊の短い入院スケジュールで行っていますが、幸いに大きな合併症もなく、治療成績も全国的な水準に遜色ない結果が得られております。いつもご紹介いただいている先生方に深謝申し上げると共に、今後ともご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

アブレーション治療の75%程を占めるのが心房細動です。かつて、その有効性は患者さまの症状改善効果にのみ示されていましたが、その後多くの研究によって、入院・死亡リスクの低減、心機能改善効果等が明らかとなってきました。それを受け、今年ガイドラインが一部改訂され、特に心機能低下例において、より積極的な治療が推奨されるようになりました。「QOL改善」から「予後改善」へ向けて、治療適応となる患者さまは今後更に増えてくると予想されます。

全国的にカテーテルアブレーションの件数は右肩上がり、現在年間10万件を越える治療が行われていますが、それでも心房細動に対する年間治療件数は、推定される患者総数の5%程度に留まります。上越医療圏全体でみると、その割合は全国平均の2割程度(1%)と極めて少なく、まだまだ必要な方に十分な医療が提供できていないのが現状です。心房細動は、時間とともに止まりづらくなり、塞栓症・心不全等のリスクが累積していく病気ですので、より良い治療効果を得るには、如何に早く診断し、適切な介入が行えるかが鍵となります。地域により良い医療をお届けするために、すべきことはまだまだ多いと感じています。

そうした活動の一環として、当院では月曜午前にアブレーション(不整脈専門)外来を設けています。特に心房細動の治療適応は年々見直されており、症状だけでなく、心機能や併存疾患を踏まえて方針を決定していくことが必要となります。初回診断例は勿論、心機能・適応再評価のご依頼や、ひとまず説明だけでも聞いてみたい、という方、お気軽にご相談いただければ幸いです。



## 形成外科診療のご紹介



形成外科 おのだ さとし 小野田 聡

みなさんこんにちは。上越総合病院の形成外科を担当させて頂いております小野田聡です。

私は所属する富山大学附属病院では、顕微鏡下での微小血管吻合を用いた頭頸部や乳房などの再建手術やリンパ浮腫の外科的治療を専門に行っています。

上越総合病院では、**毎週木曜日の午後に形成外科の診療及び手術**を行っています。当院での診療内容は主に局所麻酔下での**皮膚腫瘍切除や陥入爪の根治手術、眼瞼下垂の修正手術や外傷・手術後の傷のケアなどを担当**しています。加えて、上越総合病院は地域内の基幹病院としての役割があり、それぞれの診療科が活発な診療を行っています。そのため、整形外科からの外傷、循環器内科からの虚血肢、外科系各科からの創傷関連の問題やケロイドの相談など様々な患者さまを院内各科と連携して治療にあたっています。特に**乳癌や婦人科癌の術後に生じるリンパ浮腫**は、北信越地方では専門に治療する医師や治療機関がほとんど無く、潜在的に多くの患者さまが治療を受けることが出来ずに困っておられると思います。残念ながら北信越地域は、リンパ浮腫診療に関しては日本で最も後進地区のひとつであると思います。これらの現状を勘案し、当地方ではあまりなじみの無いリンパ浮腫の治療についてネットワーク構築や情報共有、患者さま・医療従事者への啓蒙活動のために、医師や看護師、療法士を対象として、私の所属する富山大学附属病院を中心にリンパ浮腫治療に関する地方会組織（北信越リンパ浮腫治療研究会：現在会員数は約150名）を立ち上げて活動を行っております。リンパ浮腫に興味のある医療従事者の方は是非ご参加頂くと共に、リンパ浮腫関連の患者さまがおられましたらご紹介頂ければと思います。

3年前から上越総合病院での形成外科診療を開始いたしまして、これまでたくさんの患者さまのご紹介を頂いておりましたが、今春より近隣に形成外科のクリニックが開院された影響もあり受診患者さまが減少傾向となっております。総合病院の強みを生かして、診療に充たっておりますので、形成外科関連疾患の患者さまがおられましたら院内外問わずご紹介の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



## 「移設された人工透析室のご紹介」

いわさき あきのり  
人工透析室 看護師長 岩崎 昭徳



日頃より、近隣医療機関と近隣施設の皆さまには、大変お世話になり感謝申し上げます。

この度、2024年4月より患者さまの利便性と快適性を高めるために、新たに透析棟が2階建てで建設されました。

1階部分には透析待合室のほか腹膜透析室と診察室を併設し、2階部分には人工透析室機能が移設され運用を開始いたしました。

新しい透析室は68床のベッドを設営し、従来よりも広々としたスペースを確保しており、最新の透析設備とともに清潔で快適な環境を提供しております。

各ベッドには個別のTVモニターが設置され、患者さまが透析中にTVの視聴などでリラックスしてお過ごしいただけるよう工夫されています。

また、透析の専門スタッフが常駐し、患者さま一人ひとりに最適な治療を提供できる体制を整えております。

移設後の人工透析室は、病院本館での検査等にアクセスしやすくなっており、患者さまの通院送迎にも安全を配慮した設計となっています。

今後も患者さまの健康を第一に考え、より質の高い医療サービスの提供に努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 患者紹介に関するご案内



6月から前方連携の担当になりました小林有紀と申します。  
不慣れなことが多くご迷惑をおかけしますが、  
患者さまが安心して当院を受診できるよう  
医師、外来スタッフと連携に努めて参ります。  
どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携窓口では、地域の医療機関や施設の先生方と当院医師とのパイプ役となり、ご紹介患者さまが円滑に治療を受けていただけるよう受療支援を行っています。患者さまのその時々々の症状等に応じて適切な医療が提供できるよう、当日の受診、ご予約などの調整をいたします。

専任の看護師がワンストップサービスとして対応しておりますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

医療機関様／施設様からのご紹介・お問い合わせは

上越総合病院 患者サポートセンター

電話 025-524-3000 (代表)

FAX 025-524-3140 (直通) まで

